

第41回神奈川県病院学会 プログラム

テーマ

「病院の働き方改革/コロナ時代の地域医療」

日時：2022年10月5日(水)

14:00 ~ 17:00

実地会場：神奈川県総合医療会館7階大講堂

神奈川県横浜市中区富士見町3-1

WEB配信 神奈川県病院協会ホームページ

当日ライブ 及び 後日録画配信



主催：公益社団法人神奈川県病院協会

学会長：神奈川県病院協会 会長 吉田 勝 明

学術委員長： " 副会長 長 堀 薫

第 41 回神奈川県病院学会

協 力 団 体

(公社)横浜市病院協会	神奈川県医療専門職連合会
(公社)川崎市病院協会	(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会
(公社)相模原市病院協会	(公社)神奈川県栄養士会医療事業部会
三浦半島病院会	(公社)神奈川県看護協会
鎌倉市医師会病院会	神奈川県公衆衛生協会
湘南病院協会	(一社)神奈川県作業療法士会
湘南西部病院協会	(一社)神奈川県精神保健福祉士協会
厚木病院協会	(公社)神奈川県病院薬剤師会
大和・高座病院協会	(公社)神奈川県放射線技師会
小田原医師会病院会	(公社)神奈川県理学療法士会
足柄上病院会	(一社)神奈川県臨床検査技師会
	(公社)神奈川県臨床工学技士会
	(公社)全国病院理学療法協会神奈川県支部

(公社)：公益社団法人

(一社)：一般社団法人

記載なし：任意団体

プログラム 目 次

	ページ
1 当日実地 プログラム	1
開 会 (14:00)	
I 特別講演 (14:15)	1
II シンポジウム (15:45)	3
閉 会 (17:00)	5
2 一般演題 (WEB 配信 10 月 5 日～11 月 2 日)	
(1) 発表演題一覧	6
(2) 一般演題抄録集 (別 冊)	8
3 WEB 配信について	9

WEB 配信 神奈川県病院協会ホームページをご覧ください。

1 当日実地 プログラム

(実地会場 神奈川県総合医療会館 7階講堂)

開 会

14:00～14:10

総合司会	神奈川県病院協会	常任理事	三 角 隆 彦
開会の辞	神奈川県病院協会	副 会 長	長 堀 薫
学会長挨拶	神奈川県病院協会	会 長	吉 田 勝 明
来賓挨拶	神奈川県健康医療局	局 長	山 田 健 司
	神奈川県医師会	会 長	菊 岡 正 和

I 特別講演 (各40分×2名)

14:15～15:35

特別講演 1

「待ったなしの医師の働き方改革～押さえておきたい3つのポイント～」

講 師 斐 英 洙

ハイズ株式会社代表／慶應義塾大学大学院特任教授

プロフィール (はい えいしゅ)

医師、医学博士、MBA。奈良県出身。1998年医師免許取得後、金沢大学第一外科に入局し、急性期病院にて外科医として勤務。勤務医時代に病院におけるマネジメントの必要性を痛感し、その後、慶應義塾大学院経営管理研究科に入学しMBAを取得。

現在は、病院経営に特化したコンサルティング会社代表として、全国各地の病院経営のアドバイザーとして活躍するとともに、慶應義塾大学大学院 特任教授はじめ複数の大学院で教職を務め、病院経営に関して教鞭を取る。



新たな健康危機である COVID-19 感染症等が加わり、医療機関を取り巻く経営環境はますます厳しくなっています。医療機関は社会的インフラとして、外部環境の大きな変化にも限られた人員で効率的かつ効果的に常時対応することが求められています。その中で、医療職の過重労働や過労死がますます問題視され、医療現場における働き方改革は待ったなしと言われており、ついに 2024 年 4 月から医師の時間外労働時間の上限規制が始まります。今回、演者が委員として加わった厚生労働省「医師の働き方に関する検討会」「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」での議論を踏まえて、医療機関における働き方改革に関する方向性を示しつつ、経営的視点・マネジメント視点から働き方改革についてお話します。

特別講演 2

「地域救急隊を巻き込んだ救急医療DXの最前線」

講師 園生 智弘 先生

TXP Medical 株式会社 代表取締役 / 救急集中治療医

プロフィール (そのお ともひろ)

2010年東京大学医学部卒業。東京大学病院、日立総合病院で主に救急集中治療関連の臨床業務に従事。救急科専門医・集中治療専門医。

臨床業務の傍ら、急性期向け医療データベースの開発や、これに関連した研究を複数実施し、2017年に医療データで命を救うをミッションに掲げたTXP Medical (ティーエックスピーメディカル)株式会社を創業。

2018年内閣府SIP (エスアイピー)のAIホスピタル (エーアイホスピタル) 研究事業に採択。日本救急医学会救急AI研究活性化特別委員会委員。救急医療現場にDXをもたらすNEXT Stageシリーズを病院や消防機関に提供するとともに、医療現場における適切なIT活用に関して発信を行っている。



神奈川県横須賀市では、2022年夏より、地域救急隊を巻き込んだ救急医療情報連携プロジェクトが開始された。救急患者の状態を音声入力やOCRを用いて救急搬送前にデータ化し、写真等を含めて病院と即時情報共有を行う。本情報は電子カルテへの転記やラインワークスでの院内関係者との共有も可能である。救急隊を巻き込むことはハードルが高いように思われがちだが、救急医療のデジタル化と適切な患者搬送の実現は消防機関の切望するものでもある。本プロジェクト実現までの具体的な流れや、救急隊を巻き込む際のtipsを含めて紹介する。

**** 休憩 (10 分間) ****

Ⅱ シンポジウム (1時間 15分)

15:45～17:00

「目前に迫った病院の働き方改革」

座長 神奈川県病院協会 副会長 (神奈川県病院協会学術委員長)
横須賀共済病院 病院長 長堀 薫

プロフィール (ながほり かおる)

1978年 横浜市立大学医学部卒業

米国City of Hope ポスドク

山梨医科大学第1外科・横浜市立大学第2外科 講師

肝胆膵外科、腹腔鏡手術を専門とする

2001年 横須賀共済病院 外科部長

副院長等を経て2014年 より病院長

AIを中心としたデジタルトランスフォーメーションを用いて医療者の負担軽減を図っている。また、三浦半島での病院の機能分化とネットワーク化による連携事業をめざしている。



座長から一言

みなさま、いずこの病院もこの2年半あまりのコロナ禍でたいへんご苦労されたことと思います。お疲れ様です。オミクロン株になり集団免疫も拡がり重症化率がやっとながって来た昨今ですが、それもつかの間、病院にとって次の難題である医師の罰則付時間外労働規制が1年半後に迫っています。

救急体制は守れるのか、日当直が時間外になったら通常勤務への影響はどうなるのか、医師の人件費はどのくらい増えるのか、課題はさまざまです。

今回、厚労省の委員でもあり経営的視点から改革の方向性を示される斐先生、中小病院の立場から機能の変更や存続の可能性に言及される菅先生、変化の時代における高い看護能力の提供を求められている長岡先生、現役救急医でありつつデジタルトランスフォーメーションで成果をあげられている園生先生と、多彩なメンバーによるシンポジウムを企画しましたのでぜひともご堪能いただければ、幸いです。

1 シンポジスト課題提起

① 神奈川県病院協会 副会長

医療法人社団総生会理事長、麻生総合病院病院長 菅 泰博

「働き方改革時代における中小病院の生き残り戦略」

プロフィール (すが やすひろ)

医療法人社団総生会理事長、麻生総合病院病院長

2000年 東京医科大学大学卒業

2006年 東京医科大学外科学第一講座（呼吸器・甲状腺外科）
助教

2012年 同大講座客員講師

2012年 医療法人社団総生会麻生総合病院病院長就任

2014年 同法人理事長就任

2019年 聖マリアンナ医科大学呼吸器外科非常講師



「医師の働き方改革」は中小の民間病院にどれほどの影響があるのだろうか？それは大学病院や基幹病院からの派遣される医師の割合で大きく左右される。特に当院のような民間の急性期病院は、常勤医師のみで夜間休日を含めたすべての日常診療を回すことが難しく、派遣が減らされたり中止された場合は、診療体制の大幅な変更を余儀なくされる。場合により病院機能の転換を迫られることになり地域医療構想に影響を与えかねないと危惧している。

中小病院の機能維持、存続をかけた戦略について、問題提起しながら考えてみたい。

② 神奈川県立よこはま看護専門学校

学校長 長岡美穂

「多職種連携で取り組むタスクシェア・シフト
～これからの看護職に求められていること～」

プロフィール (ながおか みほ)

1989年 社会福祉法人恩賜財団 済生会横浜市南部病院

1995年～2005年

神奈川県立看護教育大学校附属看護専門学校、神奈川県立
看護専門学校看護専任教員

2005年 神奈川県立こども医療センター

2010年 地方独立行政法人神奈川県立病院機構

循環器呼吸器病センター看護科長/医療安全管理者

2016年 神奈川県庁健康医療局保健医療部保健人材課副課長

2018年 地方独立行政法人神奈川県立病院機構循環器呼吸器病
センター副看護局長

2020年 神奈川県立よこはま看護専門学校学校長

現在に至る

認定看護管理者資格取得



2019年4月「働き方改革関連法」が施行され、医療機関においても順次整備を進めている。看護職では、すでに看護業務のあり方や提供の仕方についての見直しが進められているが、さらに医師の働き方改革に向け、なお一層の業務内容の整備が喫緊の課題である。中でも多職種連携で取り組むタスク・シフト/シェア推進は国を挙げた医療の変革である。そのような状況の中、これからの看護職に求められることは、その専門性を発揮することである。さらに患者中心のより質の高い医療を提供するために何をすべきかという課題を共有したいと考えている。

また、看護基礎教育現場の立場から、これからの看護職に求められる看護実践能力について述べたいと思う。

2 意見交換 (約1時間)

(シンポジスト2名 × 特別講演演者2名 × 会場)

座長	長堀 薫
特別講演演者	斐 英 洙
	園 生 智 弘
シンポジスト	菅 泰 博
	長 岡 美 穂

Ⅲ 閉会

17:00

神奈川県病院協会 常任理事

横須賀市立うわまち病院 病院管理者

沼田 裕一

2 一般演題（WEB配信）

※お名前は、発表代表者のみ記載させていただきました。
共同研究者等のお名前は、該当のホームページか、一般演題抄録集（別冊）をご覧ください。

(1) 発表演題一覧

No	職種	演題名	病院名(団体名)	氏名
1	薬剤師	コロナ時代の「市民のためのくすり講座」	神奈川県病院薬剤師会	遠藤 篤
2	看護師	コロナ禍における人材育成に関する取り組みと課題	クローバーホスピタル	古川 幸代
3	看護師	医療療養病棟において尿道留置カテーテル抜去の重要性	横浜鶴見リハビリテーション病院	佐藤 理香
4	看護師	クリニカルパスを用いた病床管理	横須賀共済病院	曾宮 はるみ
5	薬剤師	薬剤課の取り組み ～タスクシフト・タスクシェアに向けて～	クローバーホスピタル	長澤 茜
6	事務	外来診療における業務の効率化 ～チーム医療における医師事務作業補助者の関わり方～	横浜南共済病院	浅生 圭
7	看護師	看護補助者の夜勤導入	横須賀共済病院	鈴木 章子
8	放射線技師	ポータブル撮影における水晶体被ばくの検討	金沢文庫病院	三枝 礼紀
9	臨床検査技師	当院における採血室の新しい取り組み	佐藤病院	寺田 洋子
10	栄養士	給食委託の前と後	茅ヶ崎市立病院	葦津 幸子
11	作業療法士	COVID-19感染拡大が医療従事者の精神的健康に与える影響の後方視的探索	北里大学病院	猿爪 優輝
12	言語聴覚士	コロナ禍での高齢者地域グループ支援におけるリハビリテーション専門職の役割について～保健師と共同開催した地域グループ連絡会の経験より～	横浜鶴見リハビリテーション病院	清水 宗平
13	看護師	汐田総合病院での地域看護師育成について—経緯・現状・今後—	汐田総合病院	奥山 洋子
14	看護師	看護師が患者に向き合うこと ～入院が長期化しているA氏との関わりから学んだ事～	金沢文庫病院	長浜 幸
15	看護師	病棟退院支援ナースの育成	聖マリアンナ医科大学病院	宇津宮 薫
16	薬剤師	調製後に未使用で廃棄される薬剤の実態調査と削減の取り組み	横須賀共済病院	片山 文子
17	看護師	ドクターカーナース育成のための教育整備と課題	藤沢市民病院	丸山 由穂子
18	理学療法士	COVID-19クラスターが発生した総合病院における消毒剤消費量と個人防護具コストの変化	汐田総合病院	吉川 大志
19	看護師	夜間の高吸収パッド導入によるスタッフの疲労蓄積度変化の一考～回復期リハビリテーション病棟における調査より～	汐田総合病院	呂 乃杰
20	放射線技師	神奈川県放射線技師会における医療被ばく線量評価及び最適化に対する取り組み	神奈川県放射線技師会	岩崎 真之
21	理学療法士	横浜市における心臓リハビリテーション継続に向けた地域スポーツ施設連携の取り組み	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	宮澤 僚
22	薬剤師	当院における睡眠薬使用に対する薬剤師の取り組み	横浜南共済病院	佐藤 剛
23	薬剤師	入退院支援等における病院薬剤部門と保険薬局の情報共有の現状～神奈川県病院薬剤師会業務調査報告～	神奈川県病院薬剤師会	高橋 照明

24	臨床工学技士	新型コロナウイルス感染患者の呼吸治療業務の変化について	相模原協同病院	花田 祥穂
25	事務	RPA利用状況報告	横須賀共済病院	野間 貴衛
26	薬剤師	横浜南共済病院薬剤科の地域連携・薬薬連携の取り組み	横浜南共済病院	中島 研
27	薬剤師	病気に対するスティグマとアドボカシー活動に関する調査	相模台病院	朝比奈 慶
28	薬剤師	医療機関におけるインスリンに関連する事故の内容分析	相模台病院	坂田 有加
29	事務	当院の医師働き方改革推進について	平塚市民病院	宮川 優也
30	事務	施設基準管理担当者の育成事例	済生会横浜市東部病院	金城 悠貴
31	理学療法士	コロナ禍におけるリハビリテーションとセラピストの行動変容	クローバーホスピタル	鈴木 真維
32	看護師	働き方改革と医療安全法定研修	済生会横浜市東部病院	大原 志歩
33	薬剤師	川崎幸病院での睡眠・せん妄に関する意識改革 ～せん妄対策チームの介入 薬剤師編～	川崎幸病院	大森 俊和
34	看護師	当院におけるCOVID-19対策の取り組みについての創意工夫 ～様々な部署での名脇役の活躍でチームがひとつに～	太田総合病院	野地 広美

※看護師（11）、薬剤師（9）、事務（4）、理学療法士（3）、放射線技師（2）、栄養士、作業療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、臨床工学技師（各1）

（2）一般演題抄録集

※別冊「第41回神奈川県病院学会／一般演題抄録集」

3 WEB 配信について

(1) 配信期間

2022 年 10 月 5 日

特別講演・シンポジウム 実地ライブ配信
(リアルタイム)

一般演題 WEB 配信開始

2022 年 10 月 12 日

特別講演・シンポジウム（録画） WEB 配信開始

※神奈川県ホームページでの一般公開ですが、裴 英洙 講師の
特別講演のみ、都合により会員限定ページでの配信になります。

2022 年 11 月 2 日

特別講演・シンポジウム、一般演題 WEB 配信終了

(2) ホームページ

神奈川県病院協会ホームページ

URL <https://www.k-ha.or.jp/>

※トップページ緑色のタイルをクリック

公益社団法人神奈川県病院協会

〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町 3 - 1

神奈川県総合医療会館 4 階

TEL 045 (242) 7221 (代表)

FAX 045 (231) 1794